

科学の敵

論説委員 田中伸明

日々小論

新型コロナウイルスワクチンの基礎となる技術を開発し、2023年のノーベル生理学・医学賞を受けたカタリン・カリコ氏は、母国ハンガリーの財政難による研究費打ち切りを受け、1985年に米国へ渡る。多くの科学者がしのぎを削る研究環境は厳しかったが、同志との出会いが画期的な成果を生んだ。

もしカリコ氏が今、母国から新天地を目指すとしたら **A** を選ばなかったに違いない。

第2次政権発足から100日が過ぎたが、ランプ米大統領は科学を敵視するかのような政策を続ける。その象徴はロバート・ケネディ・ジュニア氏の厚生長官への登用だろう。

ケネディ氏は **B** 懐疑派として知られ、接種と自閉症を結びつける誤った主張を唱えてきた。健康医療行政トップへの就任後は、ワクチン関連の予算が大幅に減らされている。

世界保健機関（**C**）からの脱退方針も国際的な感染対策を後退させかねず、次のパンデミック（世界的大流行）時の悪影響が懸念される。

ランプ大統領は公衆衛生以外にも、自らが嫌う研究分野の予算や人員の大幅な削減を続けている。気候変動やトランスジェンダーの健康などに関する研究も標的にする。それに伴い、世界トップの集積を誇った頭脳の流出が始まっている。

英科学誌ネイチャーが3月に実施したアンケートによると、米国の研究者の75%超が国外への脱出を検討している。特に若手にその傾向が強く、希望先にはカナダや欧州が挙げられた。

日本でも近年、**D** 科学を軽視する施策がノーベル賞受賞者らから批判されてきた。米国を見限った人材を厚遇する方針を強く打ち出し、海外に流出した頭脳の穴埋めをしてはどうか。

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 空欄Aに入る国名を書きましょう。

2 空欄Bに入る言葉を、本文中から抜き出して書きましょう。

3 空欄Cには、世界保健機関の英語の略称が入ります。英語3文字で書きましょう。

4 空欄Dに入る言葉を、次の中から選んで記号で書きましょう。

㊦応用 ㊩自然 ㊷基礎 ㊴人文

NIEワークシートのこたえ（2025年5月8日公開）

◆ワークシート「科学の敵(理科・社会)」 2025.5.7付 朝刊 4面 解答

- 1 米国（アメリカ）
- 2 ワクチン
- 3 WHO
- 4 ㊦